

# 奥出雲町原田遺跡で後期旧石器時代の墓の可能性のある穴を確認

1. 遺跡名 原田遺跡（仁多郡奥出雲町佐白）

2. 調査主体 島根県教育委員会（埋蔵文化財調査センター）

3. 調査期間 平成18年4月18日～12月（予定）

4. 事業概要 尾原ダム建設に伴い国土交通省斐伊川・神戸川総合開発工事事務所から委託を受け、11年度から埋蔵文化財調査を実施している。原田遺跡の発掘調査は14年度から調査を行っている。原田遺跡の総面積は約30,000m<sup>2</sup>で、今年度調査対象は4,500m<sup>2</sup>である。

## 5. 調査概要

原田遺跡は斐伊川右岸の河岸段丘に位置している。標高は195m前後である。以前の調査で後期旧石器時代から中世までの遺構遺物が確認されている。今年度の旧石器時代の調査成果としては、三瓶浮布火山灰（約16,000年前に噴火）の上層と下層、始良丹沢火山灰（約24,000年前に噴火）の下層の3つの土層から遺構や遺物が確認された。

|      |                           |                      |
|------|---------------------------|----------------------|
| 主な遺構 | 墓の可能性のある穴1基               | 石器の集中地点（石器製作跡）10カ所以上 |
|      | 礫群（調理施設跡）15基              | 炭化物の集中地点（炉跡か）4カ所     |
| 主な遺物 | 14,000年～16,000年前のナイフ形石器6点 | など2,000点以上の石器が出土     |
|      | 16,000年～24,000年前のナイフ形石器3点 |                      |
|      | 24,000年～30,000年前の石斧3点     |                      |

使用された石材は、安山岩、黒曜石、石英、水晶、碧玉、メノウなど多彩

## 6. 墓の可能性のある穴の状況

|        |                                                                      |
|--------|----------------------------------------------------------------------|
| 掘られた時期 | 穴の上面を浮布火山灰が覆っており、穴の底面は始良丹沢火山灰層の中程である。したがって16,000～24,000年の間に掘り込まれている。 |
| 大きさ    | 長さ2m（推定）、幅1.4m、深さ0.45m。平面形は楕円形に近い。浅鉢状で、底面は平坦になる。                     |
| 出土遺物   | 黒曜石10点と安山岩1点が東側でまとまって出土している。                                         |
| 埋没状況   | 穴を掘ったときの土砂をそのまま使って埋め戻しているようである。                                      |

## 7. 意義

- (1) 島根県で旧石器時代の穴が発見されたのは初めて。
- (2) 穴の性格は不明だが、墓の可能性が考えられる。仮に墓であれば本州2例目（全国4例目）。
- (3) 昨年度の調査と合わせ石器の出土総数は5,000点を超え、礫群も60基以上確認された。
- (4) 年代のわかる3つの土層から多くの石器製作跡や調理施設跡、炉跡が確認され、さらに墓の可能性のある穴もみつかった。以上のことから、旧石器時代の生活を具体的に復元できるため、中四国地方でも第一級の遺跡といえる。

## 8. その他

平成18年11月23日（木：勤労感謝の日）13時00分より現地説明会を開催。  
集合場所は原田遺跡（別紙参照）。説明は調査担当者が行う。  
（連絡先：尾原ダム発掘調査事務所 TEL0854-48-0518）